

製品名: TNFRSF1A マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM82845**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05%アジ化ナトリウムを含む PBS 中の精製抗体
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	51KDa

抗原情報

遺伝子名	TNFRSF1A
別名	FPF; p55; p60; TBP1; TNF-R; TNFAR; TNFR1; p55-R; CD120a; TNFR55; TNFR60; TNF-R-I; TNF-R55
遺伝子 ID	7132.0
SwissProt ID	P19438
免疫原	大腸菌で発現したヒト TNFRSF1A (AA: 追加 30-211) の精製組換え断片。

背景

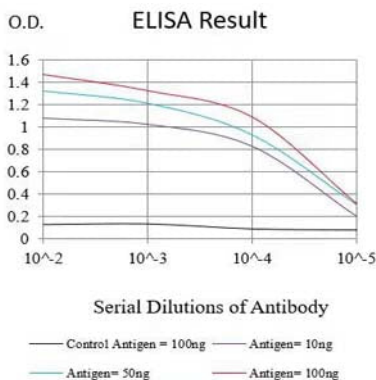
この遺伝子は、TNF 受容体スーパーファミリーのタンパク質のメンバーをコードしています。コードされている受容体は膜結合型と

可溶性の形で存在し、それぞれリガンドである腫瘍壊死因子 α の膜結合型と可溶性型と相互作用します。膜結合型腫瘍壊死因子 α が膜結合受容体に結合すると、受容体の三量体化と活性化が誘導され、細胞生存、アポトーシス、および炎症に関与します。コードされている受容体のタンパク質分解処理により、受容体の可溶性型が放出され、これが遊離型腫瘍壊死因子 α と相互作用して炎症を抑制します。この遺伝子の変異は、発熱、腹痛などの症状を特徴とする腫瘍壊死因子受容体関連周期性症候群（TRAPS）の原因となります。この遺伝子の変異は、ヒト患者における多発性硬化症にも関連している可能性があります。

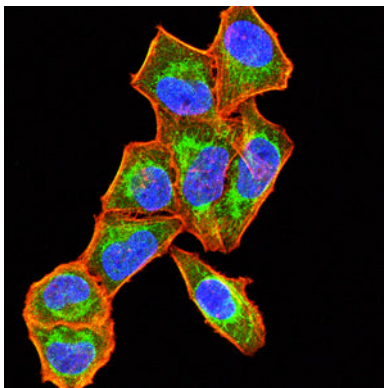
研究分野

アポトーシス、TGF- β シグナル伝達経路、MAPKシグナル伝達経路

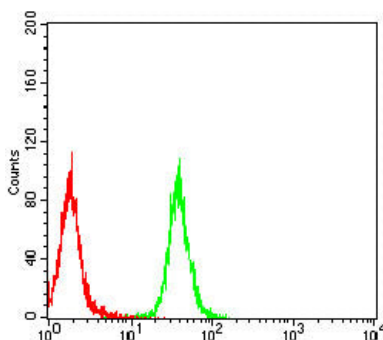
画像データ



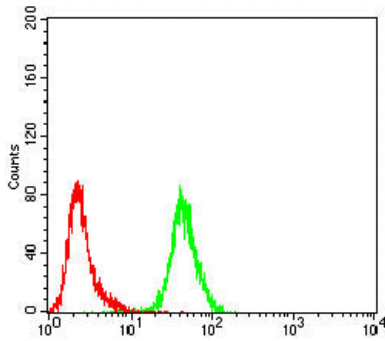
黒線：コントロール抗原（100 ng） 紫線：抗原（10 ng） 青線：抗原（50 ng） 赤線：抗原（100 ng）



TNFRSF1A マウス mAb（緑）を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青：DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤：Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



TNFRSF1A マウス mAb（緑）とネガティブコントロール（赤）を使用した THP-1 細胞のフローサイトメトリー分析。



TNFRSF1A マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した Jurkat 細胞のフローサイトメトリー分析。